

鑑賞 + 表現【絵や立体
に表す】

著作権の事情により、
作品写真の掲載はできません
(美術館でご覧ください)

題材の目標

美術作品や身近にある風景のよさや美しさに関心を持ち、空間の広がり意識して風景を絵に表す。
自分たちの作品のよさや面白さに関心を持ち、話したり聞いたりして感じ方や見方を深める。



「風景（パリ）」和田三造

「陸橋」檜山武夫

「柿実る」武永慎雄

準備物 【教師】美術作品の複写，カメラ，画用紙，ペン類，パス類，キャプション（名札）など

【児童】筆記用具，水彩絵の具，パス類，タンポ，割りばしペンなど

学習の展開例（8時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準
美術作品を鑑賞する。 (1時間)	どのようにして平面の中に奥行きや広がりを表現しているかをつかませる。	美術作品のよさやおもしろさに関心を持ち、自分の表現に生かす。
好きな景色を写真で撮る。 (1時間)	カメラやデジタルカメラを使い、空間の広がりを意識して自分の好きな景色を写真に撮る。	
写真をもとに下絵を描く。 (1~2時間)	の活動を省略し、風景を画用紙に直接スケッチしてもよい。	
画材など表現方法を工夫して着彩する。 (2.5~3.5時間)	水彩絵の具を中心に画面に奥行きや広がりが表せるように用具や表現方法も工夫しながら着彩させる。	
キャプション（名札）を作り、作品の解説もつける。 (0.5時間)	の発表で、自分の作品のよさを友だちに伝えることを意識して書かせる。	自分たちの表現に関心を持ち、見たり話したりしようとする。
鑑賞会を開く。 (1時間)	一人で発表することが困難な児童には、教師との対話式で発表させる。	

題材の意図と指導のポイント

< 児童の発達段階との関連 >

中学年になると、遠近感を意識し画面の中に空間の広がりを表そうとする姿も見られます。また、行動範囲も広がり学校の周辺や地域にあるものにも興味を持ち始めます。自分の住む地域を絵に描くことにより地域のよさや美しさにも気づける題材です。

< 鑑賞の視点 >

風景画のよさはいろいろありますが、今回は「空間の広がり」に視点をあてて鑑賞し

ましょう。また、それぞれの表現活動で作品を鑑賞し表現に生かしましょう。(例えば、着彩時には色や筆触に視点をあてて見る。)

< 指導の工夫及び配慮 >

初めて風景を描く児童にとって、この活動は画面構成をする上でとても効果的です。写真をそのまま写すのではなく、自分が絵にしたいものを選んで描かせていきましょう。

< 教具(教材)づくり >

キャプション(名札)には、題名、名前、解説、作者の写真など工夫して入れるとよいでしょう。

ひやま たけお りっきょう
檜山 武夫 「陸橋」 《油彩画、1931(昭和16)年、91.0×91.0cm》

1906(明治39)年、広島市大須賀町に生まれ、汽車の機関士をしながら風景、静物、人物などを描きました。特に鉄道に関係ある作品は愛着をもって描いていたようです。26歳の若さで亡くなりましたが、自分が納得できるまで何度も何度も描き直したそうです。この作品は広島駅近くの愛宕(あたご)跨線橋を描いています。陸橋を下りたり上ったり、右奥へと続く道ばたにいる人と話をしたり、絵の中に入ってみたいくなる親しみのある作品です。

わだ さんぞう
和田 三造 「風景(パリ)」 《油彩画、1909~1915年頃、62.5×37.5cm》

和田三造(1883~1967年)は、兵庫県に生まれ、ヨーロッパに留学し絵の勉強をしました。この作品は画面左下に「巴里(ぱり)」と記され、パリの街並みが描かれています。手前から、道を行き交う人々、建物の影が映る川面、街路樹、逆光の建物、雲が浮かぶ空などが描かれています。この風景は、奥への広がりと同時に左右への広がりも感じさせてくれます。描かれているものや色使いなどからパリの街の様子が想像できます。

たけなが まきお
武永 慎雄 「柿実る」 《油彩画、1976(昭和51)年、37.9×45.5cm》

武永慎雄(1913~1997年)は、広島市に生まれ、東光会や日展で作品を発表しました。画集「ふるさとの民家」などでは、県北の四季折々の風景を描いています。この作品は、「広島県の民家シリーズ93」で千代田町の民家を描いています。手前に描かれたススキや紅葉した木の向こうに主題である民家が描かれ、その向こうに山や空が広がり、秋ののどかな農村の様子を表しています。